

豊かにかかわり 高め合う 鳩森の子

～シブヤ未来科の実践を通して～

第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

令和5年11月29日（水）5校時

渋谷区立鳩森小学校 4年1組

授業者 税所 泰行

1 単元名 みんながくらしやすい町、渋谷のバリアフリーについて考えよう！

2 単元の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、身の回りのバリアフリーについて考え、障がいのある方の疑似体験、障がいのある方や地域の人との関わりを通して、だれもが安心して生活ができる社会を実現するために自分たちにできることを考え、区役所へ提案する。友達や地域の方々と協働しながら、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次の通り育成する。

- (1) 探究的な学習の過程において、「みんながくらしやすい町にするにはどうすればよいか」という課題について、車いす・白杖の体験や障がいのある方の願いを基に考えるとともに、調査してまとめたことを区役所に提案する中で、探究的な学習のよさに気付く。
- (2) 自分たちが住んでいる渋谷という町を「みんながくらしやすい町にしよう」という問いを見だし、価値ある課題を自分で立てて、手段を選択して情報を集め、各教科等で学習したことを活用しながら整理・分析して、相手や目的に応じてまとめ・表現する力を身に付ける。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、自他の願いや思いを尊重しながら自分たちの住む地域に誇りを持ち、積極的に渋谷のまちづくりに関わろうとする態度を養う。

3 本単元で育成を目指す資質・能力（評価規準）

目標を実現するにふさわしい探究課題	探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力（評価基準）		
	①知識及び技能	②思考力・判断力・表現力	③学びに向かう力・人間性
地域や学校の特色に応じた課題 未来の渋谷をよりよいまちにするための取組（福祉）	【知識】 この地域には多様な人たちが住んでいて、支え合ったり尊重し合ったりしていることを理解している。 【技能】 障がいのある方の疑似体験や障がいのある方との交流を通して、自分たちができることを考え、第三者に向けて発信することができる。	【課題の設定】 自分たちを取り巻く地域社会に広く目を向けて課題を見出し、解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てることができる。 【情報の収集】 多様な方法で自分の目的や意図に即した情報を収集し、種類に合わせて紙面やICTで蓄積することができる。	【主体性・協働性】 自分と身近な実生活・実社会の問題解決に他者と協働して進んで取り組もうとする。 【自己理解・他者理解】 探究活動を通して、自分自身を理解し、他者の考え等を受け入れ尊重しながら学び合おうとする。

	<p>【探究的な学習のよさ】 だれもが暮らしやすい町にしたいという自分たちの思いの変容は、地域のよさや課題、人々の思いについて探究的に学んだことによる成果であると気付く。</p>	<p>【整理・分析】 適切な思考ツール等を選んで情報を整理し、情報と情報がどのような関係にあるか、見出すことができる。</p> <p>【まとめ・表現】 他教科等で培った表現力等を活用したり、学習の仕方を振り返り他の学習や生活に生かしたりすることができる。</p>	<p>【将来展望・社会参画】 地域との関わりの中で、地域にとって必要なことと自分にできることを検討し、実践に移そうとする。</p>
--	--	---	--

4 単元設定の理由

(1) 児童の実態

本学級の児童は、第三学年の総合的な学習の時間で行った「鳩森安全パトロール隊」において、学校の周りの危険な場所について調べ、安全マップを作成し、学校の掲示板にも安全マップを掲示している。そのため、車の出入りが多い所、人通りの少ない道など、自分たちにとって危険な場所については分かっているが、段差や傾斜など、障がいがある方にとって危険な場所については調べられていない。だれもが安心して生活ができる社会を実現するために、様々な方と関わりながら自分たちにもできることがあるという実感をもってほしいという願いを込めて、本単元を設定した。

(2) 教材について

本単元は、障がいのある方のお話や障がいのある方の疑似体験、グループによる調査活動を通して、自分たちの地域に住んでいる身体に障がいのある方や高齢者などの実情や思いを知り、すべての人が安心して暮らせる町にするために、自分たちにできることを区役所に向けて提案していく単元である。疑似体験や交流を通して、「障がい」や障がいがある方に対して関心をもたせると同時に、障がいのある方の気持ちを考えたり、様々な立場の人が共に生活していることに気付かせたりし、自分たちには何ができるか、探究させたい。

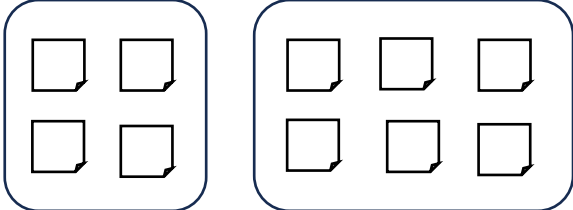
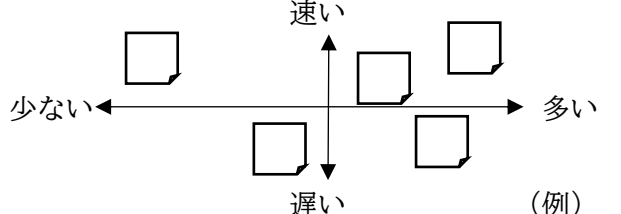
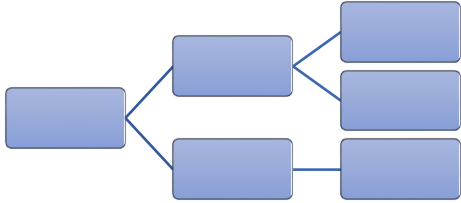
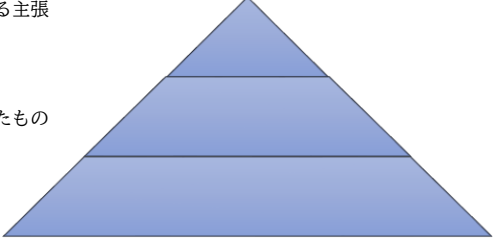
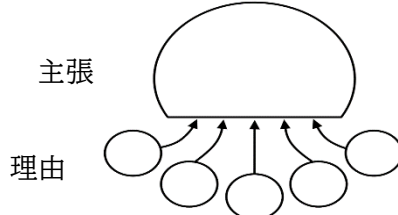
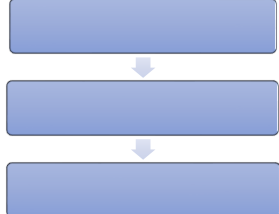
5 主題に迫るための手立て

(1) 渋谷区社会福祉協議会との連携

児童にバリアのある不自由さを気付かせるために車いすや白杖の体験をする場を設定している。車いすや白杖の数の確保、ゲストティーチャーとしての関わり、児童が調べてまとめたことを発信する場所として、渋谷区社会福祉協議会とは単元を通して密接に関わり、児童の学習が深まるようにする。

(2) 指導方法の工夫

集めた情報や自分の考えを分類・整理したり、話し合ったことをまとめたりする時に、思考ツールを効果的に活用できるようにする。そのために、思考ツールには様々な種類があること、どのような時にどのような思考ツールが使えるか等を事前に指導しておく。

<p>K J 法【情報の類型化】</p> 	<p>座標軸【それぞれの関係を可視化】</p>  <p>(例)</p>
<p>ロジックツリー【構造化】</p> <p>問題点 理由 原因</p> 	<p>ピラミッドチャート【焦点化】</p> <p>中段から言える主張</p> <p>重要な情報・ 下段をまとめたもの</p> <p>収集した情報</p> 
<p>クラゲチャート【主張と根拠】</p> <p>主張</p> <p>理由</p> 	<p>ステップチャート【順序づける】</p> 

(3) 各教科との関連

国語科「新聞をつくろう」では、取材・要約したことを相手や目的に応じて分かりやすくまとめ、表現する学習を行った。第三次では、渋谷区社会福祉協議会へ調べてまとめたことを提案するので、本単元でも生かせるようにする。

算数科では、既習事項を基に解決する力を、理科では事実から考察する力を育むよう指導しているので、本単元でも生かせるようにする。

6 指導計画（55時間）

	探究的な学習の過程	指導のポイント
プロローグ ①	総合オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 思考ツールの活用方法を理解させる。 総合的な学習の時間の学び方を指導する。
第一次 バリアフリーについて知る ②	<p>【課題の設定】「渋谷はみんながくらしやすい町か」について考えを出し合い、バリアフリーについて関心をもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 第3学年「鳩森安全パトロール」での学びを生かす。
	<p>【情報の収集】本やインターネットでバリアフリーについて情報を収集し、学校周辺のバリアやバリアフリーについて調査する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> バリアフリーについての基礎知識を持たせる。

	<p>【整理・分析】集めた情報を整理・分析し、まとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・思考ツール「KJ法」を活用する。
	<p>【まとめ・表現】学校周辺のバリアやバリアフリーについて、マップにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鳩森小学校の周辺でも、様々なバリアやバリアフリーがあることに気付かせ、第2次につなげる。
第二次 障がいがある方の気持ちについて考える(⑬)	<p>【課題の設定】作成したバリアフリーのマップを基に、障がいがある方の気持ちについて考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題意識をもたせ、一人一人の問いにつなげる。
	<p>【情報の収集】障がいがある方へのインタビューや車いす・白杖体験を行い、情報を収集する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューや体験活動を通して、バリアの困難さ、バリアフリーのよさを実感させる。
	<p>【整理・分析】集めた情報を基に、第1次では気付かなかったことをバリアフリーのマップに追加し、よさや問題点について整理する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・思考ツールを活用し、考えを整理する。
	<p>【まとめ・表現】グループごとにまとめた内容を渋谷区社会福祉協議会の方に発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーからの意見を聞き、次の課題につなげられるようにする。
第三次 自分たちができることの提案(⑭)	<p>【課題の設定】第2次でまとめた内容をもとに、調べた場所の福祉施設の問題点から「自分たちに何ができるか」を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい提案に向けて、「自分たちにできること」を明確にする。
	<p>【情報の収集】グループごとに、「自分たちができること」を共有し、障がいがある方への支援のしかたを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい提案に向けて、必要な情報を収集させるようにする。
	<p>【整理・分析】調べた情報を基に、「自分たちができること」をまとめ、整理・分析する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで協働的に活動を行えるようにする。
	<p>【まとめ・表現】「自分たちができること」を、渋谷区社会福祉協議会の方に発表したり、実際にできることを実行したりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの思いや考えが、社会とつながることを実感できるようにする。

7 本時（16/55）まとめ・表現

（1）ねらい

自分たちが住んでいる周辺のバリアやバリアフリーについて集めた情報を整理、分析し、考えをもつ。

（2）学習指導過程

	○学習活動 ・ 予想される児童の反応	・ 留意点 ○評価
導入	<p>○前時の学習を確認する。</p> <p>○本時のめあてを確認する。</p>	<p>・ 前時の学習の様子を電子黒板に映す。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> フィールドワークで得た情ほうを、整理・分せきしよう。 </div>	
展開	<p>○公共施設のバリアやバリアフリーについて見付けたことや気付いたことを付箋に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 点字ブロックがあった。 ・ 音響式信号機があった。 ・ 手すりがあった。 <p>○グループで公共施設のバリアやバリアフリーについて見付けたことを交流し、思考ツールを使って整理する。</p> <p>「資料から気付いたことを話し合いましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目が不自由な人にとってのバリアフリーが多い。 ・ 足が不自由な人にとってのバリアが多い。 ・ 駅の中はバリアフリーが多い。 <p>○グループごとに見付けたこと、気付いたことを発表する。</p>	<p>・ 気付いたことを付箋にメモして意見を整理しやすくする。付箋は、バリアとバリアフリーで色分けする。</p> <p>・ 思考ツール「KJ法」を使って、付箋の内容を仲間分けできるようにする。</p> <p>・ グループ活動で、意見を交流しながら進められるように促す。</p> <p>○適切な思考ツールで情報を整理し、情報と情報がどのような関係にあるか、見出すことができる。</p> <p>・ 気付いたことをタブレット端末のオクリンクに入力し、全体に共有できるようにする。</p>

<p>終末</p>	<p>○次時の見通しをもつ。 「グループごとに気付いたことがたくさんありましたね。今回の学習で調べたことは十分であると言えますか。」 ・車いすに実際に乗ったらもっと気付くことがある。 ・障がいがある方の意見を考えたい。 「実際に車いすなどの体験もして、さらに学校周辺のバリアやバリアフリーについて深めていきましょう。」</p>	<p>・本時の学習を次時につなげ、障がいがある方からのお話や車いす・白杖体験をすることで情報をさらに集めるという活動への意欲をもたせる。</p>
-----------	---	--